

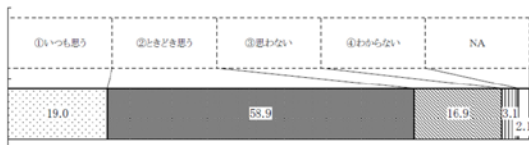
地元新聞に載りました！

「調査」に応じてくださった看護職員のみなさん、ありがとう！(〇)！

昨年冬に実施した日本医労連『看護職員の労働実態調査』。県内で回答して下さった 1,408 名のみなさんの声が、地元「中国新聞」5/7 付朝刊に紹介され、ウェブサイトでも全国に配信されています。

この調査で浮かび上がったのは、●看護職場の深刻な「人手不足」が、多くの仕事の働きがいや健康をむしろ、看護をおびやかしている最大の原因であること、●看護師確保法ができて 20 年が経とうとしているのに、現場の異常事態はかえって悪化しており、きちんとした「働くルール」が迫られていること、です。

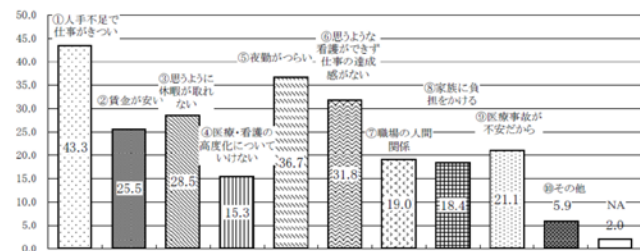
(2) 「辞めたいと思う」主な理由、43.3%が「人手不足で仕事がつきつい」
仕事を辞めたいと思う理由 19.0%と、「ときどき思う」58.9%と合わせると77.9%と、約8割になる。「確保法」ができて20年近く経つのに、依然改善しない。(問34)
【問34】「仕事を辞めたい」と思うこと



「仕事を辞めたい理由」では、「人手不足で仕事がつきつい」43.3%が最も多く、次いで「夜勤がづらい」36.7%、「思うような看護ができず仕事の達成感がない」31.8%、「思うように休暇が取れない」28.5%がつづく。いずれも、特に「人手」の問題に対する抜本的な対策なしには解決しない。(問35)

「医療事故が不安だから」という理由も21.1%あるが、その主な原因(上位2択)についても、84.9%が「慢性的な人手不足による医療現場の忙しさ」を上げている。(問19)

【問35】仕事を辞めたいと思う主な理由 ※問34で①、②と答えられた方(3つ以内)



看護職員9割「ヒヤリ」経験

広島県医労連は、看護職員の労働実態について実施した調査結果をまとめた。9割近くが「一歩間違えば医療事故になりかねない」「ヒヤリハット」の経験があると回答した。

日本医労連が昨年年度実施した全国調査の一環。県医労連が県内約3千人の看護師や助産師たちに調査票を配布し、1408人から回答を得た。回答者の87.8%が過去3年間に「ヒヤリハット」の経験が「あり」と答えた。原因(二重回答)の合計が77.8%に達した。一方で、74.9%が「看護にやりがいを感じる」と答え、4%を占め、「看護が嫌いを感じる」と答え、1.4%を占めた。

また、仕事を辞めた理由として「人手不足で体壊すケースが多い。夜勤回数の規制や職員増員に向けたい診療報酬の引き上げが必要」と訴えている。(加納亜弥)

原因の93%「人手不足」

10.5/7 中国新聞

こうしてみんなの声をあつめると、看護職場の共通する問題が浮き彫りになり、そして地元の中国新聞でも広く紹介されることによって、組合のない職場に働く同じ看護職や、患者さん、市民のみなさんに直接届けられる、「大きなメッセージ」になりました。日本医労連全体では27,545名。全国紙でも紹介されており、いま反響を広げています。

全44問というタイヘンなアンケートに答えてくださったみなさんに、心からお礼申し上げます！ \ (^o^) 【「報告」全文は組合にあります】

5月16日(日)午後1時、県医労連「春のナースウェーブ」へ!!!

記念講演・輝いてますか?あなたの看護。長時間労働・夜勤にサヨナラを

講師：大村淑美さん(看護師・日本医労連顧問)

- 「よい看護」の実践と実現にこだわって運動の先頭に立ってきた大村さんのお話で、看護のやりがいや誇りを再確認したり、学ぶことができ、元気になれます♡
- 国際的な常識や科学的知見から日本の看護現場、特に「夜勤」の問題について見直すことができ、新しい学びを得たり日常のモヤモヤが整理され、スッキリ元気になります♡